

〈来なさい そうすれば分かります〉

ヨハネ 1 : 35 ~ 42

バプテスマのヨハネは単刀直入。『見よ。神の子羊』とイエスをただ見せた。説明したのではなく見せた。

「どのように」罪が取り除かれるのかと説明したのではない。

「誰が」 罪を取り除くことができるのかを指し示した。

日本人は「罪」を「恥じ」と置き換える文化があって、「罪」が理解しにくい。悪い事をした分、良い事をすればそれは赦される？ 罪は自分で相殺できる？
しかし

神は神の基準（律法）に照らして罪の清算を求める。

感覚的な曖昧なものによるのではなく、律法で白黒はっきりさせられた。

罪には罰が伴う。自分の罪の赦しのために、身代わりの子羊の血が流される。

イスラエルの民は、いつもその犠牲を見ていた。だから「罪を取り除く子羊」の意味が分かった。

◆ 関係によって見方は変わる

イエス・キリストに対する理解。どれだけ知っているか。自分との関係性が重要。

◆ 人格がメッセージを語る

『見なさい』という言葉は、イエスキリストの存在を指している。その生き様にメッセージがある。

◆ まずイエス様を見る

「何をしたら良いか」と考える前に、イエス様を見る。

「来なさい。そうすればわかります。」と言うけれど・・・

ついていくとはどういうことだろうか？

イエス様はその場では教えずに、ついてくるように命じられた。

「泊る」・・・2つの意味

イエス様もつ 「地上の仮住まい」と「天にある真の住まい」

泊っている所をただ教えるためではなく、天の住まいを知ることが求められた。

①イエスキリストは誰であるかを知ること

②神の御心を悟るようになること

そしてアンデレとヨハネはついていった。

『来なさいそうすれば分かります』この言葉には、ついて行く方への信頼が要る。

もし、私の計画、私の方法が、神への信頼より勝たらどうなるだろうか・・・。

子どもの親に対する信頼感と絆はすごい。親を疑うことを知らないから。

私たちの父なる神はそれ以上の存在。

